

## 倫理講義 9 ドイツ観念論 カント・ヘーゲル

**得点源** カントは、実践理性、道徳律、「汝、為すべし」、定言命法と仮言命法を理解しよう

て妥当するように行わせよ

つまり、① 理論理性…カントは理性を理論理性と 実践理性 に分けた。理論理性とは認識能力のことで、具体的には感性・悟性・純粋理性から成り立っている。私たちの認識のしくみを分析すると、まず「今・ここに」といった形で「何かがある」と直観される（知覚の段階）。それを、様々なカテゴリーにあてはめて、「何か」とは「バラの花だ」に認識するのが悟性（認知の段階）。対象を感性で捉えて、それを悟性によって何なのかを意味づけ、認識する。そして、感性と悟性を統括しているのが純粋理性なのだ。純粋理性がなければ、感性で捉えた対象と悟性の捉えた概念をまとめる存在がいなくなってしまう。だから、感性と悟性のまとめ役として純粋理性が必要なのだ。これが、カントの認識論。

**コペルニクス的転回**→「認識が対象に従うのではなく対象が認識に従う」カントの認識論を示す言葉だ！

僕たちが北斗七星という対象をひしゃくだと認識するから、北斗七星はひしゃくに見えるんだよね。対象が認識に従っているよね。

② 実践理性…自由とか自律、義務、人間の尊厳とか、道徳的な事柄を担う能力を実践理性という。この道徳的な能力をもって自律的に行為する主体を 人格 とした。実践理性とは、自分が自分に対し、「汝、為すべし」と命じ、それに基づいて行動する（定言命法）。「汝の意志の格率が、常に同時に普遍的立法の原理として妥当するように行わせよ」という道徳律である。つまり、いつでも・どこでも・誰にでも当てはまる原理・原則に基づいて行動しなければならないし、人間を単なる手段や道具として使用するのではなく、自由で自律的な意志をもつ人格として、また目的として行為しろということ。

### センター過去問演習

#### 2016 本試 倫理・政経 カントの思想

人間の認識能力をめぐるカントの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 時間・空間という形式をもつ悟性と、量・質・関係・様相という形式をもつ感性の協働により、認識は成立する。それゆえ、「内容なき思考は空虚」であり、「概念なき直感は無目」である。
- ② 受容した素材を、経験に先立って存する形式によって秩序づけるのだから、私たちの認識は単なる模写ではない。「認識が対象に従う」というよりは、むしろ「対象が認識に従う」のである。
- ③ 経験を通じて与えられるのは、現象のみである。だが、与えられた現象を手がかりとして、その背後に想定される物自体についてまで、私たちは認識をひろげることができるのである。
- ④ 神、宇宙の始まり、自由、霊魂の不滅など、私たちの経験を超越する事柄に関しては、理性はこれを認識の対象とすることができない。したがって、それらの存在は否定されるべきである。

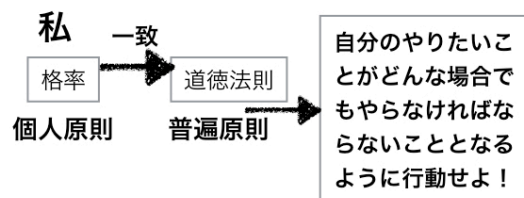
正解→②カントの「コペルニクス的転回」についての正しい記述。「経験に先立って存する形式」とは、因果性を始めとするカテゴリーのこと。①「悟性」と「感性」を入れ替えると正しい記述になる。③人間が認識できるのは現象だけであって、現象を超えた物

### ①… 理論理性



### ②… 実践理性

汝の意志の格率が常に同時に普遍的立法の原理として妥当するよう行動せよ！



感性…経験によって、今（時間）・ここ（空間）にある対象を直観する能力（知覚の段階）  
理論理性 悟性…感性で捉えた対象を整理し、概念を構成する能力（認知の段階）  
 理性 純粋理性…推論の能力  
実践理性 …自由にして自律的な意志のこと  
 道徳法則ともいう  
 ↓  
 道徳律＝「汝、為すべし」  
 ↓  
 VS 定言命法  
 「～せよ」  
 「生命を大切にしろ」  
 「汝の意志の格率が、常に同時に普遍的立法の原理とし

Pain is inevitable Suffering is optional

自体については認識できないというのがカントの立場。④経験を超える事柄について認識できないというのは正しいが、それらの存在が否定されるというのは誤り。

### 2012 本試 倫理・政経 カントの主張

科学的な認識に関するカントの主張として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 認識はすべて経験に由来するものであり、人間の心はもともと何も書かれていない白紙のようなものである。
- ② 確実な認識は、経験に依存せず、人間に生まれつきそなわっている観念を基礎とした理性的思考によって得られる。
- ③ 認識とは、主観にそなわる認識能力によって対象を構成することであり、認識が対象に従うのではなく、対象が認識に従う。
- ④ 確実な認識は、精神が弁証法的運動を通じて段階的に発展していく過程において得られるものである。

正解→①白紙とはタブラ＝ラサ、とくれば、ロックである。②デカルトら大陸合理論の考え方。③コペルニクス的転回、カントだ正解→③。④弁証法だからヘーゲル。

### 2014 本試 カントの批判哲学

カントの批判哲学についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 合理論と経験論の一面性を乗り越えるべく、両者の立場を総合して、人間が物自体を理性によって認識できるとした。
- ② ヒュームの著作に影響を受け、自然科学の客観性を疑問視して、その基礎にある因果関係が主観的な信念であると論じた。
- ③ ロックの著作に影響を受け、人間の靈魂や神など、人間が経験できる範囲を超えた対象については、その存在を否定できると論じた。
- ④ 認識が成立する条件を考察し、人間の認識は、認識の素材を受け取る能力と、その素材を整理し秩序づける能力の両者から生じると論じた。

正解→4。

④合理論者は経験によらない合理的な推論によってのみ真理が得られるとし、経験論者はあらゆる知の源泉を経験に求めたのに対し、批判哲学を確立したカントは、認識は素材を受け取ることに始まり、それを能動的に秩序づけることによって完成されるとして、合理論と経験論を統合した。①カントは人間の認識能力では、物自体は認識できないとした。②カントは確かにヒュームの強い影響を受け、因果性の概念が客観的に存在するものではないとしたが、人間が思考する際に必ず用いざるをえないカテゴリーであるとして、単なる主観的信念にすぎないという見解はとらなかった。③靈魂や神などについては感性的な経験の及ばない世界であることから、カントはそれらについて思考することはできるが認識することはできないとした。とはいえ理性的な認識が不可能であるということは、その存在が否定されることを意味するわけではない。このような立場は不可知論と呼ばれる。

**得点源** ヘーゲルは、弁証法、人倫、「欲望の体系」、絶対精神、「理性の狡智」を理解し

よう！

1 **弁証法** …正・反・合の三段階を経て物事は発展するという論理。  
つばみ→花→果実

### 2 **人倫の三段階**

正 家族	反 市民社会	合 国家
愛情で結びついた状態	愛情を手放すかわりに自由を手に入れる	家族の愛情による結びつきと市民社会の自由を共に生かした状態
		= <b>人倫</b> の最高形態

弁証法とは絶えず発展していくという考え方なんだ。軍国主義日本がアジアを闊歩したかと思えば日本の敗戦→平和憲法制定→高度経済成長→現在  
歴史は弁証法そのものなんだ。

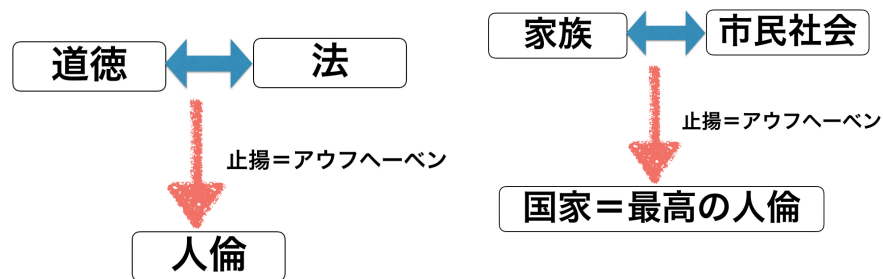
3 **理性の狡智** …個々人がバラバラに行動しているようでも、その背後から神（**絶対精神、世界精神**）が彼らを操り、結果的に神の意志が実現されるという考え。

### 2019 本試—倫理・政経 ヘーゲルの歴史観

ヘーゲルの歴史観についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 絶対精神は、歴史の発展過程において、道徳によって人間を外側から、法によって人間を内側から規制し、最終的に両者の対立を総合した人倫において、真の自由を獲得する。
- ② 絶対精神は、自らの抱く理念を実現する過程において、理性の狡智を發揮して、自らの意図に沿うように人間を操り、歴史を動かしていくことで、真の自由を実現する。
- ③ 絶対精神は、歴史の発展過程において、人倫によって人間を外側から、道徳によって人間を内側から規制し、最終的に両者の対立を総合した法において、真の自由を実現する。
- ④ 絶対精神は、自らの抱く理念を実現する過程において、理性の狡智を發揮して、国家同士を争わせ、歴史を通してそうした対立状態をたもち続けることで、真の自由を実現する。

正解→② ①道徳は内側、法は外側だろう ③法と人倫を入れ替えれば○④絶対精神が操るのは個人、国家同士を争わせるのでは



ない。

Pain is inevitable Suffering is optional